

2021年度

事業報告について

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

学校法人 岐阜済美学院

目次

I 法人の概要

- 1. 設置する学校・学部・学科等 2
- 2. 学院設置学校（園）の入学定員及び学生・生徒・園児の状況..... 2

II 事業の概要

- 1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業 6
- 2. 済美高等学校の事業 17
- 3. 中部学院大学短期大学部附属幼稚園の事業 23
- 4. 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園の事業 25

I 法人の概要

1. 設置する学校・学部・学科等

- * 中部学院大学[1996（平 8）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘、各務原市那加甥田町
 大学院 人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 [修士課程] [博士課程（後期）]
 人間福祉学部 人間福祉学科
 教育学部 子ども教育学科
 看護リハビリテーション学部 理学療法学科・看護学科
 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科
 通信教育部 人間福祉学部 人間福祉学科
 留学生別科

- * 中部学院大学短期大学部[1967（昭和 42）年 1 月設置] 関市桐ヶ丘
 幼児教育学科
 社会福祉学科

- * 済美高等学校[1918（大 7）年 9 月設置] 岐阜市正法寺町
 普通科・商業科
 保育科・衛生看護科

- * 中部学院大学短期大学部附属幼稚園[1973（昭和 48）年 2 月設置] 岐阜市下土居

- * 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園[1979（昭和 54）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘

2. 学院設置学校（園）の学生・生徒・園児数

2021.5.1 現在
 (単位人)

(1) 学校別総計

学 校 名	学生・生徒・園児数
中部学院大学大学院	19
中部学院大学	1,686
中部学院大学（通信教育部）	508
中部学院大学（留学生別科）	9
中部学院大学短期大学部	332
済美高等学校	924
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属幼稚園	196
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園	141
子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）	12
計	3,827

(2) 各学校別学部・学科別学生・生徒・園児数

< 中部学院大学 (学部・学年別) 学生数 >

2021.05.1 現在(単位人)

学部・学科	入学定員	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	計
人間福祉学研究所						
修士課程	5	1 (1)	2 (1)	-	-	3 (2)
博士課程	3	5 (2)	0 (0)	11 (2)	-	16 (4)
計	8	6 (3)	2 (1)	11 (2)	-	19 (6)
人間福祉学部						
人間福祉学科	100	103 (52)	120 (74)	103 (60)	101 (61)	427 (247)
教育学部						
子ども教育学科	80	74 (19)	84 (37)	79 (31)	70 (13)	307 (100)
看護リハビリテーション学部						
理学療法学科	60	62 (27)	73 (43)	71 (45)	65 (42)	271 (157)
看護学科	80	86 (8)	87 (16)	91 (19)	73 (11)	337 (54)
計	140	148 (35)	160 (59)	162 (64)	138 (53)	608 (211)
スポーツ健康科学部						
スポーツ健康科学科	80	84 (66)	91 (67)	79 (64)	90 (64)	344 (261)
合 計	408	415(175)	457(238)	434 (221)	399 (191)	1,705 (825)
通信教育部 (正科生)	100	27 (9)	41 (8)	107 (32)	333 (83)	508 (132)
留学生別科	30	9 (1)				9 (1)
総 計	538	451 (185)	498 (246)	541 (253)	732 (274)	2,222 (958)

注 () 内は、男子数で内数

人間福祉学科 3 年次編入定員 15 人・子ども教育学科 3 年次編入定員 10 人

2014 年 4 月よりリハビリテーション学部を看護リハビリテーション学部に変更

2015 年 4 月より子ども学部子ども学科を教育学部子ども教育学科に変更

2017 年 4 月よりスポーツ健康科学部スポーツ健康学科開設

留学生 (人間福祉学科 45 人)

< 中部学院大学短期大学部 (学科・学年別) 学生数 >

2021.05.1 現在 (単位 人)

学 科	入学定員	1 学年	2 学年	計
幼児教育学科	100	89 (5)	81 (0)	170 (5)
社会福祉学科	80	78 (23)	84 (16)	162 (39)
総 計	180	167 (28)	165 (16)	332 (44)

注 () 内は、男子数で内数

幼児教育学科のうち、委託訓練生 24 人 (1 年生 12 人、2 年生 12 人) 含む

社会福祉学科のうち、委託訓練生 26 人 (1 年生 13 人、2 年生 13 人) 含む

留学生 幼児教育学科 1 人 (2 年生 1 人)

社会福祉学科 59 人 (1 年生 28 人、2 年生 31 人)

< 済美高等学校 (科・学年別) 生徒数 >

2021.05.1 現在 (単位 人)

学 科	募集定員	1 学年	2 学年	3 学年	計
普通科	195	270(98) [8]	192(57) [7]	158(31) [6]	620(186) [21]
商業科	40	26(15) [1]	22(10) [1]	36(19) [1]	84(44) [3]
保育科	50	50(0) [2]	46(1) [2]	37(0) [1]	133(1) [5]
衛生看護科 (女子のみ)	40	35 [1]	25 [1]	27 [1]	87 [3]
計	325	381(113)[12]	285(68) [11]	258(50) [9]	924(231) [32]

注 () 内は、男子数で内数

[] 内は、クラス数

<中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属・幼稚園（年齢別）園児数>
2021.05.1 現在(単位人)

	収容定員	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
附属幼稚園	200	3 [1]	54 [3]	66 [2]	73 [2]	196 [8]
桐が丘幼稚園	200	5 [1]	42 [2]	41 [2]	53 [2]	141 [7]
計	400	8 [2]	96 [5]	107 [4]	126 [4]	337 [15]

注 [] 内は、クラス数

<子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）幼児数> (単位人)

	幼 児
ひよこ	12

<シティカレッジ関（延べ受講者数）>

	前 期	後 期	計
ビジネス系講座	22	18	40
福祉系講習	96	46	142
外国語講座	97	100	197
健康・スポーツ講座	168	164	332
教養・趣味等講座	121	126	247
わかくさプラザ開講講座	115	129	244
キッズ講座	73	64	137
計	692	647	1,339

<シティカレッジ各務原（延べ受講者数）>

	前 期	後 期	計
アインシュタインコース	154	159	313
ソクラテスコース	435	438	873
レオナルドダビンチコース	189	189	378
計	778	786	1,564

※アインシュタインコース：特別な分野に興味・関心を持つ中学生までのコース

ソクラテスコース：ゆっくりじっくりと自分独自の大学生活を味わうコース

レオナルドダビンチコース：道を究め専門的な技術や知識を高めるコース

II 事業の概要

1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業報告

1. 教育方針

中部学院大学並びに中部学院大学短期大学部は、キリスト教福音主義のもと建学の精神を「神を畏れることは知識のはじめである」と定め、医療・教育・福祉・スポーツ健康の各領域に亘る現場経験の豊富な教授陣による教育と、こころ豊かな人間性を育む生活環境を整え、一人一人の学生に対して自分自身の進路を実現するために教職員一体となり指導を展開した。

2. 2021年度事業報告（基本）

大学及び短期大学部では、引き続き両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進した。

まず、大学経営会議においては、「第2期中期計画」（2020～2025年度）前期（2020～2022年度）のアクションプランに基づき施策を推進した。また、IR推進センターでは、引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策への反映を進めた。ここでの分析結果を各学部・学科と随時共有し、大学及び短期大学部の内部質保証の充実に活用した。

次に、内部質保証の充実に向けた学内調査の刷新や教員の教育・研究等の活動を顕在化する取組みを通し、施策を実施した。

このほか、このコロナ禍において入国が難しい中、福祉施設と連携した留学生受入れ事業や介護福祉士実務者研修制度など本学の人的資源を生かした施策を実施した。

また、新型コロナウイルスの種々の感染拡大に防止策を推進する中、学内において教職員、その家族及び学院関係者並びに地域企業に従事する1,000名を超える方々を対象に本学看護学科及び市内の病院などの協力のもと、新型コロナウイルスワクチン職域接種（第1回目、第2回目）を実施した。

さらに2021年度においても各種行事・イベント等が中止、延期、縮小となるなど多大な影響を受けた。こうした中、入学式（2020年度中止）及び卒業式については、感染防止対策や行事内容を縮小するなどコロナ対策を万全にすることにより、特に混乱もなく現状において最大限の成果を得て開催することができた。この他、大学祭・たのしみん祭などの行事においては、オンラインと一部参加型を併用するなどwithコロナの状況下、工夫を凝らし行った。

<大学・短大>

- ・一般入試及び大学入学共通テスト利用入試においてWEB出願システムを導入した結果、約8割の受験生がこれを利用した出願となった。これは高等学校への周知に向け、入試ガイドや学生募集要項の改訂を行うとともに、インターネット出願ガイドブックの制作を行った結果の現れと考

えられる。また、入学前教育についても入学前の課題の見直しを行い、コロナ感染に細心の注意を払い入学前研修を対面又はオンラインで実施した。

- ・ 高等教育の修学支援新制度（国の授業料無償化施策）の開始に伴い、関係部署と連携し、本学独自の奨学金や修学支援制度との調整を行い、受験生、入学生及びその保護者に申請手続き及び的確な活用方法等を周知し、経済的負担の軽減を図った。
- ・ 昨年度に引き続き、「私立大学等改革総合支援事業」等を始めとし、各種外部資金の獲得に向けて取り組んだ。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により対面授業と ICT を活用した遠隔授業を併用するハイブリッド型による授業を実施した。また 11 月からはコロナ感染対策に一層配慮し、対面授業に切り替えた。
- ・ 大学では 2021 年度より新入学生全員にタブレット型 PC を貸与し、急速に進む ICT 化に伴うグローバル化や情報化の進展、社会普及を踏まえた授業を推進した。また、就職状況では就職を希望する学生の 98.8%（看護学科及びスポーツ健康科学科は 100%）が就職を決めた。
- ・ 通信教育部では社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正が 2021 年度から適用されたためこれに対応した。また、学生募集の一環として通信教育部の紹介ビデオを作成し、公開した。
- ・ 短期大学部では 2021 年度も就職を希望する学生全員が就職（幼児教育学科：20 年連続・社会福祉学科：19 年連続）を決めた。また社会福祉学科の医療事務コースでは新たに歯科助手養成の新規カリキュラム（履修は 2021 年度後期から）に基づく学習をスタートさせ、歯科クリニックでの実習も実施した。

3. 学部（学科）・事務局事業報告

全学的に推進する活動に加えて、各学部・学科においても教育・研究の充実・発展を図るために下記の取り組みを行った。

（1）大学

（ア）人間福祉学科

福祉専門職の養成を中心に、公務員や一般企業を希望する学生、留学生など多様な学生を受け入れ、学生の「なりたい自分」を支援した。第 1 に学生育てでは、多様な学生を受け入れるため、学年主任、学年コーディネーター及びゼミ担当教員が協力し学生に向きあい学生の指導に努めた。しかし、コロナ禍もあり経済的に困窮する学生を中心に退学者が 3%ほどあった。第 2 に学生募集では、連携高校との共同授業の実施や高校への出前授業などにより社会福祉や本学の特徴をアピールしたが、留学生の減少などもあって定員には満たなかった。第 3 に国家資格試験、公務員試験については合格率の向上を目指して、対策講座、模擬試験、公務員養成プログラムに取り組んだ。公務員合格者は増加してい

るが、国家試験合格率は介護福祉士（全国 72.3%）、精神保健福祉士（全国 65.6%）は共に 100%、社会福祉士は 30.7%で岐阜県内 1 位になったが全国平均（31.1%）に達しなかった。第 4 に地域連携では、2021 年 5 月に岐阜県はじめ岐阜市社協、大垣市社協など県内の社会福祉協議会と共同で「ぎふ地域福祉フォーラム 2021」をハイブリッドで開催し福祉関係者の参加を得た。また、授業科目「現代福祉マネジメント」を公開授業とし、学生と地域の企業者・市民が共に学ぶ場を提供した。

(イ) 子ども教育学科

子ども理解を基本としながら、発達や教育の専門家を育成するという観点から、二つのコースが一体となって教育・研究に当たってきた。

小学校・中学校教諭コースでは、「自信を持って教壇に立てる指導力と豊かな子ども観を備えた教育者の育成」を目指し、基礎学力の向上に向けた内容を盛り込んだ基礎ゼミの充実を一層図るととともに、教育実習や学校インターンシップなどの体験的教職科目の拡充に努めた。さらに、教師としての指導力や考え方を確かなものにするための授業「教師への道」を 2 学年から開始し、即戦力となる確かな教師力を計画的、継続的に身に付けさせることとした。教職センターにおいては、「教員採用試験対策講座」、「教師塾」、「外部講師講座」などを授業や実習、採用試験と関連させながら開催した。

幼稚園教諭・保育士コースでは、「乳幼児から 18 歳までの発達を支える専門家の育成」を目指し、幼保から小への発達、学びの連続性を重視した、いわゆる「学びの森保育プラン」の充実を図った。具体的には、学生それぞれに将来の仕事を描かせながら、各種の現場実習を通して自己の課題とその解決を図るための手立てを繰り返し実践させながら育成に努めた。また、「保育実践講座」や「幼稚園教諭・保育士試験対策講座」等の充実を図り、公務員保育職の養成にも力を入れた。

こうした結果、2021 年度の卒業生の資格取得者数は幼稚園教諭 1 種免許 63 名、保育士免許 39 名、小学校教諭 1 種免許 25 名、社会福祉士受験資格 7 名であった。また、主な就職先は、小学校等教員・講師 9 名、幼稚園教諭 9 名、認定こども園保育教諭 6 名、保育士 16 名（内公務員保育職 3 名）、児童福祉関連施設職員などであった。そのほか、さらに深い学びを求めて 2 名が教職大学院等に進学した。

なお、「まなびの森フェスティバル」や「親子ふれあいフェスタ」に代表される地域貢献事業は、コロナ禍により二年連続で開催できなかった。

(ウ) 理学療法学科

1 年次から進路に対する動機づけを行うため、検査・測定論、体表解剖学など理学療法士への専門科目を配置した。また、専門科目や基礎演習、理学療法概論などでは、人を対象とする医療人、社会人に相応しい接遇への関心を持つように指導した。前期からの遠隔授業と対面授業の

混合（11月からは対面授業）という授業形態の中、各科目において確実に単位取得が可能となるような遠隔授業に見合った資料を作成し配布するなどの配慮を行い、単位未修得者への負担軽減を図った。学外での学びである臨床実習を充実するため、2年次の臨床実習に対する複数回の実習指導、3年次の臨床実習指導（前期・後期）と4年次の臨床実習指導（前期）を実施した。その中で3年次には前期、後期に渡り OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、学科教員だけでなく、卒業生の協力も得て、臨床実習実施の円滑化を図った。この OSCE は卒業生が加わったことで、学生へ適切な緊張感を与えることができた。

コロナ禍が続き、2021年度も学外の臨床実習の実施が不十分だったため、学科 FD 研修は学内において実習不足分を補うための ICT 教育をテーマに実施した。

臨床実習と国家試験対策を円滑に進めるため、2年次より定期的に「達成度試験」を実施することにより、知識の定着度を確認するとともに、その結果を速やかに各学生にフィードバックし、各自の弱点の改善に役立てることができた。4年次の国家試験対策では、コロナ禍により学生の登校日が限られる中、可能な限り、感染予防策を徹底し登校日を確保し、不足分は Teams（メンバーと会話する機能に加えて資料を共有する機能）、ポータル等を利用し遠隔による学生指導を行った。この結果、2021年度の理学療法士合格率は 83.63%となり、全国平均(79.6%)は上回ったものの 100%達成とはならなかったが、就職希望者の就職率は 100%であった。

(エ) 看護学科

第 111 回看護師国家試験合格率は、98.6%で全国平均（新卒 96.5%）を上回ったが、第 109 回保健師国家試験合格率は 78.9%で、全国平均（新卒 93.0%）を下回る結果となった。看護師教育を重視する中において基礎資格となる保健師国家試験合格率の向上が例年に増して大きな課題となった。

2021年度の看護師・保健師国家試験対策の主な内容は、4年間を通して段階的な国家試験ガイダンスの実施、2・3年生には解剖生理等の専門基礎を補充学習させ、4年生では教員による国試対策補講を行い、専門領域の問題の解き方のポイントを指導した。模擬試験結果の低位学生には 11月からグループ協同学習を計画し、国試担当教員が巡回指導にあたり、ゼミ教員は相談に応え、励まし学生を後押しした。

臨地実習についてはコロナ禍によって基礎看護学Ⅰ・Ⅱとも実習中止であった。しかし3年生の領域、4年生の統合実習は約7割の臨地実習が実施できた。学科全体の臨地実習教育として2年生基礎看護学実習Ⅱ前 OSCE については 89名に対して実施した。呼吸器および消化器フィジカルアセスメントについては評価表の目標達成率は 79%で、60%以下の学生 4名に再試験を行い全員達成することができた。

5期生の就職率内定率は3月末で100%に達し、実習施設への卒業生の就職も達成できた。

(オ) スポーツ健康科学科

学生募集に関して学部開設以来すべての年度で定員を超えての入学数であった。コロナ禍の困難な状況ではあったが、岐阜県内を中心に出席授業の要望にも積極的に応じるなど、学部の広報・宣伝に努めた成果が示されたと考えている。

教育面では、より専門性が高い知識や考え方等を学べる体制を準備して学生の教育を行った。具体的には、教育実習のための事前教育、体育教員に必要な一般教養・教職教養等の充実を図る体育科教員特別演習を行った。また、就職活動に向けてのキャリア支援では、学生に対して早期に就職への意識を高めるための授業「仕事と人生」への積極的参加の促進や学科独自開催の「学内企業説明会」を実施した。さらに職業人としてまた社会人として身につけなければならない知識・技能などについての講座「内定者・内定予定者支援セミナー」などへの参加支援を行った。その結果、就職を希望する卒業生全員が就職することができた。

改定されたカリキュラムにより、柔軟性のある授業科目の選択が可能になり、学習の方向性もより明確であるため、学習意欲の向上が図れるようになったことから今後も多業種に渡る教職先で活躍できる人材の養成に努めていきたい。課題として、一部の学習速度のやや遅い学生に対してさらに細やかな対応が必要になってくると考えている。

このほか、これまで実施してきたスポーツカレッジでの活動、そして新たに実施した教職員体力テスト等によって、学内外に向けて学部の特徴を生かした活動を一層充実させていきたい。

(2) 短期大学部

(ア) 幼児教育学科

2021年度の入学者数については、学科定員100名に対してコロナ禍で、対面による短期大学部の魅力の発信は制限されたが、ホームページ記事や動画配信により、学びの可視化を推進することで86名を確保した。

2021年度は学科独自の認定資格(第1期目)である「認定あそび実技指導士」(2名)と「認定発達支援士」(12名)を授与することができた。更に2021年度入学生より、3つ目の学科認定資格「キッズフードマイスター」の取得がスタートし、意欲のある学生に対しより専門性の高い資格を認定する仕組みが出来上がった。これらの学科独自資格に関する積極的な情報発信の結果、関心を示す受験生も少なくないことから今後の成果が受験生確保につながる要因の一つになることが期待される。また、離職者訓練制度の入学生も、本学科内での存在感が定着し、学生生活や学修の協働にリーダーシップを発揮し、幅のある年代の学生構成が、学修の相乗効果をもたらしている。

就職については、コロナ禍における学外実習の中止や従来の訪問型就職活動が困難な中、就職を希望する学生全員がこれを果たし、20年連続で就職率100%を達成した。これは、ゼミ担当教員とキャリア支援センターによる綿密な情報交換により学生の希望を十分に汲んだ就職活動による成果と考えられる。特に、公務員保育者の合格のために、面接強化対策講座や公務員対策講座の受講を促し、市町村の情報を提供することで、8名の合格者を輩出した。

学生生活への支援としての入学前研修は、2020年度対面とZoom方式であったが、2021年度は感染対策に万全を期して本学にて開催した(2022年3月18日)。来校することで、教員と仲間とが直接触れ合い、入学後の不安の払しょくや学びの意欲喚起につながった。

教育のICT化では、2022年度導入のパソコン貸与事業に向け、各科目でもICT活用の教育内容の検討や試験的運用を行い、現学生へもその道筋を示すことができた。このほかコミュニケーション能力向上を目的とした画期的な取り組みとして、手品の授業の導入に向けた検討を行った。

(イ) 社会福祉学科

2021年度入学者は、4月1日時点で学科定員80名に対して86人の入学者を確保し、3年連続で定員充足を果たした。しかし、その後コロナ禍の入国制限で留学生のうち8名が未入国(入学延期)となり、学科全体で78名でのスタートとなった。内訳では、美・デザイン、医療事務両コースの入学者が22名と昨年度と同数であった。引き続き「医療事務」を希望する学生が多く2021年度から歯科助手資格取得の学習を開始し、コースの教育活動の充実を進めている。介護福祉コースでは、介護福祉士養成新カリキュラム導入を踏まえ、福祉機器利用の実践学習や3Dプリンタを活用した介護学習など、介護の高度化・科学化に定める教育の充実に取り組んでいる。

2022年度に向けては、介護福祉コースで高卒現役入学者が26名と倍増したほか、留学生38名の入学が決まり、97名の入学者を確保している(ただし、コロナ等の影響で、留学生のうち2名が5月入国予定となっている)。

就職については、就職を希望する学生全員がこれを果たし、19年連続で就職率100%を達成した。特に、美・デザイン、医療事務コースでは、医療事務、一般事務、美容系の3領域を中心に、コース特性を活かした進路実績となっている。介護福祉士国家試験については、1年次から体系的な学習支援を進めてきたが、コロナ禍で対面授業が限られたこともあり、日本人学生94.3%、留学生25.8%と昨年度の合格率(日本人100%、留学生60.9%)を下回った。今後のさらなる対策強化と、国家試験不合格者への卒業支援を検討している。

(3) 事務局

事務局においても、上記の全学を挙げての取り組みに真摯に取り組むとともに、学部・学科と連携して教育・研究等の向上に努めた。

(ア) 総務部

総務課は、校舎等建物、電気・機械・水道設備等について、学生の安全対策のため、また、本学のイメージアップのため、危険度、緊急度が高い箇所から改修等を実施した。改修工事等の主なものとしては、11号館外壁等改修工事、10号館との渡り廊下屋根防水等修繕工事、冷温水発生機改修工事、研究棟空調機器入替工事などである。

また、新型コロナウイルス対策として、学内において職域ワクチン接種を実施（2回）するとともに引き続き学生、教職員等への予防啓発及び感染防止対策として手指消毒用の「アルコール」、「ハンドソープ」、「ペーパータオル」等を配置するなど感染拡大防止に努めた。

教職員の健康管理では、全ての職員を対象に「健康診断」及び「ストレスチェック診断」を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めることで、教職員の”こころ”と”からだ”の健康保持に努めた。また衛生管理者による職場環境向上に向けた職場巡視を行い、職場責任者に対して指摘事項を指示し、指示事項に対する報告を求めて職場環境改善に努めた。

SD研修においては、教職合同のSDGsシンポジウムを皮切りに接遇研修、昨年、一昨年に引き続き新潟青陵短期大学及び北陸学院大学・短期大学との連携SDを継続して実施し、事務職員による意見交換・情報交換により相互の課題等に対する取り組みを確認した。

生涯学習課は、関市、各務原市などと連携し、地域住民のニーズに応えた幅広い分野のシティカレッジ講座や研修、市民セミナー、講演会等を、新型コロナウイルス感染症対策に努めながら開講した。また、介護福祉士実務者研修や教員免許状更新講習のほか、岐阜県から受託した介護人材確保・育成支援事業（介護事業所への研修講師派遣）を実施し、社会貢献・地域貢献に努めた。

スポーツカレッジは、コロナ禍で活動が制限される中、バルシューレ教室、チャレンジキッズ体育教室、バレーボールアカデミーなどのスポーツ教室の開催をはじめ、地域スポーツクラブ等に指導者等を派遣した。また、新規事業として、関市から受託した「ロコトレ講座（関市介護予防普及啓発事業）」を関市内3地域で実施した。また、障がい者スポーツ教室をはじめとした各種スポーツ教室の開催、優れた競技能力を有する学生・教員の派遣、スポーツイベント（ソフトテニス大会）などを実施した。

(イ) 企画部

企画戦略課は、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」等の各種補助金事業の採択に向けて、学内関係各所管の調整を行った。改革総合支援事業については、21年度は大学・短大ともに「地域連携型事業」は採

採られたものの、「特色ある教育の展開事業」については不採択となった。2022年度の採択に向けて準備・調整を進めている。IR推進センターにおいては、昨年度に引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策の反映に取り組んだ。

教育研究支援課は、全学的な情報環境管理部署として情報環境の充実を図り、情報ネットワーク基盤（中部学院 Wi-Fi）の整備・運用及び学内システムの運用支援を行なうと同時に、システム改善及び情報処理業務の効率化を図り教育活動環境の充実に努めた。特に今年度より大学新入生に対する PC 貸与事業を新規に開始したことに伴う支援体制（ヘルプデスク＜ICT サポートデスク＞等）の設置を図った。また、短大新入生についても 2022 年 4 月より PC 貸与が開始されるため、貸与環境等の準備を進めた。

教育研究支援については、大学・短大全教員の各種教育研究活動への支援強化を図ると共に、文科省・厚労省の科学研究費助成事業を始めとし、民間研究費助成金も含めた外部資金の獲得及び研究助成情報の発信に努めた。国内大学間連携協定に基づく教員間による共同研究事業、FD 研修、研究倫理教育研修等についても活動の活性化を図ると共に、多岐にわたる情報の収集に努めた。本学附置機関である、総合研究センター、人間福祉相談センター、子ども家庭支援センターの対外的受付窓口としても、従来からの業務を確実に遂行するとともに、地域に対する社会貢献を担い大学の使命の具現化を図った。

（ウ）教務部

教務課では教育の質保証に向けた厳格な成績管理を行うために、IR 推進センター会議における検証を踏まえ、授業科目成績評価基準の見直しを教務委員会において承認されこれを周知した。

また、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種状況等を考慮し、2021 年 11 月 1 日から感染防止を徹底したうえで全面対面授業を実施した。なお、遠隔授業で培った ICT 活用教育は、学生への PC 貸与事業に伴い教材等のデジタル化を加速させるとともに、履修要項の一部 PDF 化を実施することができ印刷経費の削減にも繋がった。

更に、①ソーシャルワーカー育成のための新カリキュラムの運用、②スポーツ健康科学部の新カリキュラムの運用、③GIGA スクール構想に対応した教員養成の高度化、④短期大学部における「キッズフードマイスター」及び「歯科助手」資格取得に向けた履修指導など、社会の要請に応じた教育の高度化を支援した。

次に、実習センターは、地域の新型コロナ感染症状況など、実習施設との情報共有を図り、実習が困難な場合は学内代替実習に切り替えるなど教育の効果を維持するための支援を進めた。通信教育部事務課は、定員の充足を達成するため、広報の一環として通信教育部の特色を分かりやすく紹介したビデオを公開したことで資料請求者が増加した。

(エ) 学生支援部

学生課は、コロナ禍においても学生一人一人が生き生きとした学生生活を送り自立した社会人として巣立つよう課外活動、大学行事等への支援を進めた。また、学修上の様々な課題を抱える学生、障がいのある学生、経済的困難を抱える学生等に対して関係部署と情報共有を図りながら組織的で迅速な学生支援を進めた。

キャリア支援センター事務課は、全ての学生の健全で自立的な職業観の育成を図りながら、一人一人の学生に対応するきめ細かな就職・キャリア支援を進めた。その結果、公務員試験において大学・短期大学部合わせて、47人（7年連続30人以上）が合格した。就職関係では、大学は全学科平均で就職率98.8%、短期大学部の2学科では幼児教育学科20年連続、社会福祉学科は19年連続の就職率100%を達成した。

また、課外・クラブ活動においては、2021年度もコロナ禍の影響により、思うように活動ができない状況が幾度となく訪れたが、学生たちはその苦境を見事に乗り越え、過去に初めてとなる全国大会への出場を果たすなど、輝かしい実績を残した。

硬式野球部は、秋季岐阜リーグ、秋季東海選手権、東海地区・北陸・愛知3連盟代表決定戦を勝ち上がり、明治神宮大会に3年ぶり4度目の出場を果たした。同時に人間福祉学科4年 坂田 怜選手がナックルボールを武器にプロ野球広島からドラフト育成指名を受け入団した。ゴルフ部は、全国大会に男女とも出場し、朝日杯争奪日本女子学生選手権において3位入賞を果たした。中でもスポーツ健康科学科2年 荒川 怜郁選手が同大会で優勝を飾り、2022年7月にイタリアのトリノで開催される「2022世界大学選手権」の日本選手団の一人に選抜された。軟式野球部は、創部16年目で東日本学生選抜大会準優勝という快挙を達成した。その他、剣道部の全日本学生優勝大会への初出場、空手道部の全日本大学選手権への全種目出場、陸上競技部の日本インカレ出場をはじめ、男子バスケットボール部、女子ソフトテニス部の1部昇格、吹奏楽部の東海吹奏楽コンクール金賞受賞など、数多くの活躍で本学に多大な元気や勇気を与えてくれた。

(オ) 入試広報部

入試広報課は、コロナ禍においてステークホルダー（とりわけ高校生や保護者、高校教員）と直接触れ合う対面的な広報の機会に制約を受けたことから、オンライン上で受験生とのコミュニケーションを促進するため、AIの活用やSNS、動画などのWEBやデジタル関連媒体、ダイレクトメッセージなどの活用を拡大した。また、高校生と接触できる貴重な機会の確保として、ZOOMを活用した個別相談やWEBオープンキャンパスを継続的に実施した。併せて企業が開催する進学相談会にも例年以上に積極的に参加した。感染対策に配慮しながら時間短縮による半日開催の来校型オープンキャンパスでは予備日を設けるなど感染状況を見なが

ら柔軟に実施した。

入試関係では、指定校推薦枠とそれに伴う奨学金基準について見直しを行った。また留学生入試においては外部機関や学内他部署と連携し、多くの学生を確保することができた。さらに 2022 年度入試（2023 年 4 月入学）実施に向けて、入試日程、選考方法、出願方法について入試制度の見直しを行った。

(カ) 大学広報室

大学広報室では、ホームページのリニューアルが完了したことを受け、保守・点検を行うとともに逐次修繕を行った。また各部署の情報発信担当教職員向けに、「教職員一人ひとりが広報担当」としての意識を醸成し、全学一体となって情報発信ができるようホームページに CMS（初心者でも簡単にホームページの作成・管理・運営ができるシステム）を導入するとともに記事作成研修会を実施した。これにより各部署にホームページの最終承認者を置き、ホームページの掲載承認システムの制度化を図った。またホームページへの SDGs 宣言の掲載や、高校教員向け講演会において本学の SDGs の取組について発表するなどの情報発信を行った。さらに、全学的な発行物として部活動の活躍を紹介する「中部学院カルチャー&スポーツ（準備号）」の発行を行うとともにスクールバスの始発駅に看板広告を復活させ、通学の利便性についても発信を行った。

(キ) 国際交流・地域連携部

国際交流・留学生支援課は、海外研修として、ハワイ大学機構カピオラニ・コミュニティカレッジの協力を得て、8 月（参加者 14 名）と 3 月（参加者 5 名）に、オンラインによる英語研修を実施した。また、外国人留学生のサポート支援として、日本語能力向上のための講座や日本語弁論大会の開催をはじめ、各種奨学金の獲得支援など、日本での教育・生活に関する指導・助言を行った。さらに、両キャンパスのリーププラザを活用し、キャンパス内での交流会を開催した。留学生別科では、国の入国制限により入国できない留学生に対して Zoom による遠隔授業を実施するなど、きめ細やかな支援と指導に取り組んだ。

地域・産学連携課は、関市及び関市社会福祉協議会との間で締結した災害時における学生等ボランティア活動に関する協定に基づき、防災・減災リーダー養成講座を開催した。また、教育現場における実践的指導力の育成を目指し、8 月に土岐市教育委員会、11 月には高山市教育委員会との間で、教育実習等に関する協定を締結した。「学生による地域貢献事業」や「ふれあいコラボワークショップ」などの助成事業においては、コロナ禍で様々な活動が制限される中、工夫を凝らした活動を進めた。また、オンラインを活用した「連携先との意見交換会」、「地域公開講座」を開催し、地（知）の拠点として地域への情報発信に努めた。

このほか岐阜県からの委託事業として、「外国人介護人材受入環境整

備事業」及び「外国人介護人材受入対策調査検討事業」を実施した。

また、JICA 草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「ダナン市・グハンソン地区の地区病院を中心とする老年ケア・プログラム定着と人材育成事業」は、2020年10月で終了予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業に遅れが出たため、実施期間が2022年6月まで延長された。

(ク) 図書館事務課

図書館事務課は、第2期中期計画に基づき、利用に関して質の向上を目指すため、学生に向けての利用者アンケートを実施した。その結果、学生が図書館に求めているものは学習環境の充実（Wi-Fi環境への関心は、群を抜いていた。）が第一であった。こうしたことから教育研究支援課に通信環境の現状調査を依頼した。

このほか利便性の向上では対面授業だけでなく、遠隔授業や実習等でも利用できる映像動画サービスやデータベースの活用に関して、図書館ホームページから利用できるよう案内を作成した。

コロナの感染拡大に伴う事業の開催については次のとおりである。

①学生選書ツアーではコロナの感染症状況に対応した方法（時間帯及び参加人数の分散化）により開催を実施することができた。参加した学生や教員からは次年度はゼミ単位で実施してほしいとの意見が多く寄せられたことから、次年度への検討課題とした。②関市立図書館が開催する中部学院大学シリーズへの各学科からの講師派遣事業については、3分の2ほどとなった。③2020年度はコロナ禍で中止とした地域開放については、2021年度は利用者数などの制約を設けながら実施した④夏休み期間中の中高校生向けのオープンライブラリーも同様に再開した。

指定管理者として管理運営を受託している関市立図書館では、岐阜県内の多くの公共図書館が新型コロナウイルスの影響で臨時休館する中、感染拡大防止に十分配慮しながら1日も休館することなく利用者のニーズに応えるよう努めた。その結果、最大2割程度まで落ち込んでいた入館者数や貸出者数、貸出冊数が、コロナ禍以前の7～8割程度までに回復した。また、コロナ禍でも利用できる電子図書館の登録、利用を積極的に呼びかけた。

関市内の小中学校との連携では、図書館見学で15校(731人)が訪れ、おはなし会は14校(37学級)、ブックトークでは14校(60学級)で実施することができた。また、初めてとなる「英語多読」の取組も中学校2校で実施した。イベントとしては、コロナの影響で中止していた中部学院大学の連携講座やボランティア活動等を再開し、スタンプラリーでは702人が、古本大抽選会では647人の参加があった。そのほか地域に眠っていた貴重な資料を収集、整理し、特色ある図書館の運営に努めた。

1. 済美高等学校の事業

1. 教育方針

福音主義キリスト教に基づく学校教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てることを目指しています。そのため教職員は、生徒の安全と学力保証を第一に考え、危機管理意識を共有しつつ、教育目標を明確にして、その具現化に努め教育専門職としての矜持を持ち、常に自己研鑽に努め、生徒の学力保証と進路希望の実現に邁進しています。

2. 教育活動計画

【普通科】

1) 「選抜特進」「特進」

「選抜特進」「特進」の2つのコースでは、「学力をつけて、一般入試で四年制大学へ進学する」という方針を掲げ、進学指導のしくみの構築に専心しています。2021年度は、共通テスト2年目の年となりましたが、「思考力・判断力・表現力」が重視され、会話形式の問題が増加するなど、内容的にもセンターテストとはかなり変化したものとなりました。また、コロナウイルス感染症拡大防止の対応が一層要求されるなど、例年とは大きく異なる年となりました。しかし、この数年、校長先生の進路講話を生徒及び保護者向けに何度も実施して進学に対する意識を育てること、模擬試験を有効に活用して学習を継続すること、さらに平日17時35分まで、済美塾を開講するなど教科指導に力を入れてきたこともあり、今年3月の卒業生21人のうち6人が国公立大に合格しました。(昨年は24人中8人)国公立大合格数6人の内訳は岐阜大医学部医学科1、静岡大1、信州大1、岐阜県立看護大1、都留文科大2です。私立大では、明治大3、法政大3、青山学院大1、南山大10、愛知大7、名城大5など多くの生徒が合格しています。

岐阜大学医学部医学科に現役で合格という快挙、また南山大・愛知大・関東地域の私立大学への合格者の増加などは大きな成果であり、本校の指導のレベルが上がったことを示しています。

2) 「総合進学」「健康福祉」「生活文化」

普通科の「総合進学コース」においては、基礎学力を定着化し、国立大学や地元私立大学等への進学を目指し、また「健康福祉コース」においては、健康・福祉の基礎・基本を身につけ健康福祉系の大学進学や就職などを目指します。「生活文化コース」では、食物・ファッション等の基礎・基本を身につけ家政科系の大学進学や就職などを目指しました。

その結果、2021年度においては、筑波大学、静岡大学、高知県立大学の国公立大学に共通テストを課さない学校推薦型で合格するなど着実に学力の向上を図ることができています。私立大学も公募制推薦入試を経て愛知大学、中京大学、愛知学院大学、愛知淑徳大学に進学しており、指定校推

薦ありきの進路からの脱却が進んでいます。なお、2021年度の主な進学先は以下の通りです。

総合進学コース…筑波大学・静岡大学・高知県立大学・同志社大学
立命館大学・名城大学・愛知学院大学・金城学院大学
愛知淑徳大学・名古屋外語大学・中部大学

健康福祉コース…中部学院大学（短期大学部含む）・名古屋学院大学
星城大学・岐阜協立大学

生活文化コース…中部学院大学（短期大学部含む）・名古屋学院大学
中部大学・朝日大学・岐阜女子大学

【保育科】

学科教育の特色を明確にし、幼児教育・保育系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来保育の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。1年生ではキャリア教育の一環として保育体験学習を1日、2・3年生では保育実習を3日間実施し、将来、幼児教育、保育に関わる者としての態度を育てることを目指しました。その結果、保育技術検定1級に3年生31名、2級に33名（3年生1名、2年生32名）、3・4級に1年生50名が合格しました。また、進学においては、中部学院大学などの四大に10名（27%、うち中部学院大学に9名）、中部学院大学短期大学部などの短期大学に27名（73%、うち中部学院大学・中部学院短期大学部に20名）が合格しました。

【商業科】

新しい学科教育の特色を明確にし、経営・情報系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来商業の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。

また、進化するICT社会に対応できる簿記やパソコン等、ビジネスに関する基礎的な知識と技術等を習得し、21世紀の社会・経済活動等に必要能力や資質などについても養うことを目指しました。

進路については、資格を活かし名古屋市立大学、滋賀大学3名、富山大学の国公立大学に5名合格させるという快挙を成し遂げました。また、愛知大、愛知学院大等への合格も達成しています。簿記教育強化策の徹底により、全国商業簿記検定1級(簿記履修者)は、2年連続全員合格、日商簿記2級は2年生合格者4名、3年生9名を輩出することができました。さらに、資格取得による難関大学等への合格を目指し、放課後などの補習もほぼ全員が参加し、確実に学力が身につけていることが実感できるようになりました。

【衛生看護科】

看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、准看護師試験受験資格を得るとともに、将来、看護師となるための資質・能力・態度や豊かな人間性の養成を目指しました。今年度も、10年連続で准看護師試験に全員合格しています。進学先として、四大へ2名、短大へ1名、高看へ21名進学しました。

3. 広報活動

【入試広報】

中学生及びその保護者や中学校の教職員等に、高校生としての学力を保証すると同時に生徒の進路希望を確立し、それを確実に実現する本校教育の良さを理解していただき、本校への信頼を高めています。又、生徒や教職員の活動成果を適時適切に広報し、入学した生徒が着実に成長している姿を理解いただく中で的確に生徒を確保し、入学定員を充足するよう努めました。入試広報活動に対して全教職員の一致協力体制をより強固なものとするとともに、2021年度も10月から12月にかけて毎週日曜日に日曜相談会を実施、さらに普通科説明会、専門科体験会を実施し、本校の学校教育の魅力と成果をPRしました。

4. 学校教育改革計画

【宗 教】

計画的な指導を通して、本校生徒に相応しい豊かな心を育てるべく、求める生徒像を学年別に具体的に示しました。また、聖書・礼拝指導の内容の充実に努めました。

【学校経営】

教職員が一致協力・連携し、教育専門職としての誇りを持ち、教科指導、生徒指導、部活動指導等に専念することにより、学校教育目標が達成できる「信頼される学校づくり」に努めました。

【学業指導】

タブレットを全生徒および常勤の全職員が利用できる環境を整えるとともに、プロジェクターを全ホームルーム教室に設置することによりICT教育の推進に努めました。また、新型コロナウイルス感染症対策のため出席停止となった生徒に対しオンライン授業を実施するなど生徒の学力保証に努めました。

各教科・学科・コース内の連携を密にし、本校独自の学び直し指導の確立を継続しています。また、生徒の実態に即した個に応じた指導の徹底を図り、学力保証と進路保証に努めました。さらに、授業の質・内容等の充実に努めました。

【生徒指導】

全教職員の共通理解のもと、教科、特別活動、総合的な学習の時間、部活動の指導における生徒指導を徹底し、さわやかな挨拶の励行、端正な身嗜みの保持、交通安全マナーの遵守などの基本的な生活習慣の確立に努めました。

また、学校・学級への適応指導と教育相談を充実し、生徒相互の望ましい人間関係を確立し、生徒一人ひとりが学級の一員として目標を持って、遅刻や欠席及び早退の無い、積極的な学校生活を送れるよう指導に努めました。加えて長期休業期間前には HR 活動において男女交際の在り方や性に関する指導、及びスマートフォン・タブレット等の情報機器の活用について計画的・組織的・効果的な指導に努めました。

【進路指導】

2021年度は岐阜大学医学部医学科・筑波大学・名古屋市立大学を筆頭に国公立大学への合格者数 14 名、私大合格者数 210 名でした。国公立型の選抜特進コースからだけでなく、商業科から 4 年連続、総合進学コースも 3 年連続で国公立大学合格者が生まれました。卒業生 257 名の進路内訳は、四大へ 142 名、短大へ 56 名、高専へ 28 名、各種専門学校へ 19 名、就職 10 名、その他 2 名となりました。なお、中部学院大学及び同短期大学部へは各 32 名(計 64 名)が進学しています。指定校推薦に頼らないチャレンジする入試方式を選択する生徒が増え、『行けるところから、行きたいところへ』の指導が着実に実を進んでいることを証明する 1 年でありました。

【保健厚生】

生徒の保健・健康・安全指導を計画的に実施し、生徒の健やかな心身を育むと共に、毎日の清掃美化活動等を徹底し、美しい教育環境を実現することに努めました。

具体的には、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた生活様式の変化への指導・取り組みを実施しました。生徒・職員双方に対する災害への適切な対応が出来るような防災教育と共に、自他の生命を守るため、有事の災害に備えることができるような具体的な避難訓練の実施、関係機関等との協力、健全な保健・厚生に関わる教育活動などの実践を目指した学校安全衛生委員会、学校保健安全委員会を実施しました。

【図 書】

昨年度にひき続き、今年度も新型コロナウイルス感染予防対策を図りながら、生徒の豊かな感性と人間性を育てることを目的とした図書の整備と読書活動の推進に努めました。図書室の閲覧席を 23 席に減らして密を避け、昨年中止した新入生向けオリエンテーション授業は、23 人以下のクラスは 1 クラスを 2 回に分け 2 時間で実施するなど、感染対策に努めながら少しずつ

活動を再開しています。例年どおり「読書感想文コンクール」の開催、「新刊案内」・「図書館だより」・図書委員会による「らいぶらりい」の発行など、図書館活動を積極的に展開しました。また、テーマごとに毎月変わる特設コーナーや掲示物も相変わらず好評でした。図書室で自習したり、毎日のように来館して読書に励んだりする生徒も増加しています。今後も、創意工夫を凝らした読書推進活動を展開していきます。

【特別活動】

キリスト教主義教育の基本の上に立ち、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動などにおける「指導目標と計画」を明確にし、指導内容及び指導方法のさらなる改善に努めました。また、生徒会役員選挙やホームルーム活動では、主権者教育を念頭に置き、生徒の公民的な資質の育成や個性の伸長を図り、学校生活における存在感や学校への帰属意識を高めるように努めました。

【渉外】

メール配信システムへの登録率を高める取り組みも定着し、PTA総会書面開催の成立についてもアンケート機能を活用。度重なるコロナ関連の連絡も迅速に行うことができ、メール配信システムが効率的に稼働した1年でした。PTA関係の対面形式の活動は制限を受けましたが、入学式、卒業式などの補助業務、私学20校分の署名集約などをPTA本部役員と各学年の学級委員が担うなど、協力的な体制ができつつあります。

① P T A 総会書面開催

メール配信システムによる委任集計：委任 841 人 [91%]で総会成立

② 校外研修、フォーラム、済美祭バザー、P T A 全国大会等中止

③ 私立高等学校補助金増額請願署名

本校署名数：39,266名分(目標 35,000名分以上を達成私学20校中2位)

④ 岐阜県私立高等学校保護者連合会 幹事校としての取り組み

・私立高等学校補助金増額請願署名とりまとめ・議会提出

県全体署名数：396,337名分(目標 400,000名には届かず)

・第2回常任幹事会書面開催

・全国私学振興大会岐阜県代表参加等

【部活動】

昨年度は空手道部、新体操部、ライフル射撃部、陸上部、剣道部が全国大会に出場しました。特に陸上部はインターハイ3位、射撃部においては、全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会女子団体準優勝など部活動全般にわたり成績も充実しています。また、運動部だけでなく文化系も毎年地域貢献を果たすための活動を行い活躍しています。こうした状況等については随時ホームページでお知らせしています。

5. 環境整備状況

生徒の学習環境の整備と職場環境の改善を図るため、空調設備（冷暖房装置）を北舎及び本館に新規に設置しました。これらにより北舎の全教室と本館の職員室・保健室など、極めて良好な環境下で学習に取り組むことや教職員の業務改善などを図ることができました。

また、2年以上に亘るコロナ禍の終息が見通せない中、本校だけではなく多くの教育現場では、ICT教育環境の整備の進展により教育環境も大きく変革しています。1人1タブレットの配備を前提とした学びの在り方を模索しながら、情報機器等の有効活用を通じて学びの質の向上に取り組んでいます。このため、こうした取り組みを継続的かつ高度に実施していくため昨年度に引き続き、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を図りました。具体的には全教室にプロジェクターとWi-fiルーターなどを設置し、「タブレット授業支援」として複数台の電子掲示板への表示や教材の一斉配信、回答の比較・回収などが可能となりました。

1) 教育用機器備品等の整備

超短焦点壁掛け対応プロジェクター（20台）など	15,505千円
北舎2階コンピューター室空調設置	1,100千円
生徒用カードプリンタ	223千円
など	

2) 施設の修繕・整備

北舎・本館空調機器設置工事	52,978千円
体育館床修繕工事	1,204千円
南舎内壁等修繕工事	2,475千円
グラウンド西防球ネット設置工事	2,002千円
など	

3. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

附属幼稚園の事業

1. 教育方針

- 1) 建学の精神を深く理解し、神と人とを愛するキリスト教精神による感動・感化・感謝に結ぶ『明るい楽しい愛の幼稚園』経営に努める。
- 2) 園外保育・体験やふれあいを基にした自然体験活動や、造形・音楽の表現活動、体育、英語教育に力を入れ、園児一人一人の個性や感性の伸長に努める。
- 3) 教職員研修を通して教師の資質を高め、園児一人一人の安心・安全に努めるとともに、笑顔と愛情が溢れる支援の充実に努める。
- 4) 子育て支援の充実に図り、開かれた幼稚園を目指すとともに、園児募集に繋げる。

2. 教育目標 『心豊かな たくましい子の育成』

3. 園児の募集及び確保

- 1) 特色ある保育の推進
 - ・大学、短期大学との連携による、造形、音楽、体育、英語教育の推進
 - ・広い園庭を生かした自然体験活動と、園外活動の充実
 - ・食育の推進
- 2) 開かれた園づくりの充実
 - ・子育て支援（わくわく教室、にこにこプラザ、ふれあいサロン等）の充実
 - ・日常の預かり保育や、長期休業日の「有料預かり保育」の充実
 - ・園評価を踏まえた指導改善
 - ・小・中学校、関係機関との連携強化
- 3) 保育環境の整備充実
 - ・老朽化した施設や設備の修繕、廃棄
 - ・飼育・栽培の充実
 - ・配色やイラスト、造形の効果による、明るく、楽しい雰囲気醸成
- 4) 広報活動の充実
 - ・園児募集パンフレット等の作成と、配布施設の拡充
 - ・ホームページやインスタグラムの充実と、月刊雑誌での広報

4. 安心・安全の推進

1) 安心・安全の推進

<新型コロナウイルスの感染拡大防止の徹底>

- ・園内での3つの約束の徹底
- ・保護者への啓発と情報共有

<通園バスの安全管理>

- ・指導、管理の徹底
- ・車検、点検等の徹底

<園生活の安全確保と事故防止>

- ・防犯システムの充実
- ・遊具の安全（点検と修繕）

<給食の安全>

- ・きめ細かなアレルギー対応
- ・安全な食材の使用と衛生管理の充実

5. 施設設備及び機器備品等の予算措置

・防犯、火災監視、設備監視サービスの導入	1 4 3 千円
・インターホンのリモコンシステムの	3 3 0 千円
・監視カメラシステムの導入	5 0 6 千円
・空調機取替	7 6 5 千円
・遊具の修理	8 5 2 千円
・1階テラスのペンキ塗り替え	4 5 7 千円

4. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

附属桐が丘幼稚園の事業

1. 教育方針

- 1) キリスト教精神による宗教的情操を養い、「人を愛するやさしさ」「自分で考えるかしこさ」「創りだすたくましさ」を育てることを目指す。
- 2) 豊かな自然や広い園庭を活用して、豊かな感性とたくましい体の育成に努める。
- 3) 楽しくのびのび生活する中で、きまりの大切さや生活に必要なマナーの定着を図る。
- 4) 一人一人に寄り添い、誠意と愛情をもって保育の実践に努める。

2. 教育目標 「なかまとともに 豊かな心とたくましい体をはぐくむ子」

- ◇元気に遊ぶ子（自立）
- ◇仲良く助け合う子（共生）
- ◇見つけ創り出す子（創造性）

3. 重点施策：中期計画具現に向けての人的・物的環境の整備

- 1) 特色ある幼稚園づくり（大好き活動）
 - ・自然遊び大好き・・・感性を育む表現活動
 - ・外遊び大好き・・・体づくり（体力測定）・友だちづくり
 - ・リズム遊び（歌声）大好き・・・豊かな心を育む音楽活動
- 2) 社会の変化に対応する教育
 - ・新幼稚園教育要領の趣旨（10の力）を踏まえた環境構成の工夫
 - ・5領域における「英語」「福祉」「絵本」の位置づけ
 - ・ICT支援システムの活用研究（校務のスリム化・保護者連携）
- 3) 安全・安心の推進
 - ・緊急メールシステムとホームページの活用
 - ・遊具や砂場等の保守点検の継続及び耐震補強（ロッカー等）の点検・修理
- 4) 保護者のニーズに応える保育
 - ・アンケートによる保護者ニーズの把握と子育て相談の充実
 - ・親子行事やPTA活動の見直し（スクラップ&ビルド）
- 5) 地域における子育て支援センター機能の充実
 - ・0～1歳児対象の「ぴよママ事業」の拡充
 - ・子育てファミリープラザ「コミママ事業」の見直し
- 6) 広報活動（未就園児対象事業・チラシの配布等）の充実
 - ・チラシの作成・配布
 - ・SNSを活用した広報の充実

4. 施設設備及び機器備品

・ 玄関前通路屋根張替工事	1, 034 千円
・ 園庭クレーニング取り替え工事	1, 067 千円
・ 空調機更新工事3カ所（保育室2・厨房1）	1, 320 千円
・ 園児机	506 千円